

第3部 記念座談会

「これからの同窓会のあり方～将来への展望」

【座談会出席者】

- ・幸喜 徳子（14期 会長）
- ・儀保 博信（14期 副会長）
- ・赤嶺 健治（8期 顧問）
- ・高山 朝光（6期 評議員）
- ・宮城 重哲（24期）
- ・比嘉 正幸（27期 評議員）
- ・前泊 美紀（44期 評議員）
- ・友利 直子（45期 院卒）
- ・新川 颯人（在学生）
- ・仲宗根麻衣子（在学生 久米島支部）
- ・友利 勇栄（43期 商学経営学友会事務局長）
- ・糸村 昌史（51期 銀行員）
- ・山里 将順（24期 事務局長）

《司会(儀保博信)》

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

これから同窓会創立60周年記念にあたり座談会を開きたいと思います。

本日の座談会の司会を務めます副会長の儀保博信です。

本日の座談会のテーマは「これからの同窓会のあり方～将来への展望」です。これまで同窓会活動については若い人の関わりが少ないとの印象があります。現役で仕事をされている方は、なかなか同窓会活動まで手が回らないというのが率直なところではないかと思います。

しかし、同窓会活動を継続的にやっていくた

めには、若い人たちが同窓会活動に加わり、将来に向かって同窓会をどう発展させていくかということを考えなければなりません。

本日は、これまで同窓会活動に関わってこれ

た方々と在学生、職場の中堅として活躍している若い方々とを交えて、これからの同窓会のあり方について大いに語り合いたいと思います。

それでは、話に入る前に皆さんの自己紹介をしていただき、その後会長の挨拶をお願いいたします。

《幸喜徳子会長》

会長を務めております幸喜徳子と申します。よろしくお願いします。

《高山朝光》

沖縄ハワイ協会の会長をしております高山です。よろしくお願いします。

《宮城重哲》

琉球ステムセル（株）で琉球大学医学部にあり再生医療センターにおります宮城重哲です。

《新川颯人》

琉球大学教育学部教育実践学専修小学校専攻の4年次新川颯人です。よろしくお願いします。



儀保 博信

《友利勇栄》

1995年法文学部経済学科卒業、友利と申します。現在税理士をやっております。よろしくお願いします。

《山里将順事務局長》

琉球大学同窓会事務局長の山里と申します。

《糸村昌史》

沖縄銀行の糸村と申します。どうぞよろしくお願い致します。

《仲宗根麻衣子》

久米島町観光協会にて働いており、現在琉球大学観光産業科学部産業経営学科4年次の仲宗根麻衣子と申します。

《友利直子》

友利直子と申します。所属は後ほど紹介します。よろしくお願いします。

《比嘉正幸》

琉大病院の支援団体一般財団法人徳明会の比嘉正幸と申します。

《赤嶺健治同窓会顧問》

赤嶺健治と申します。1960年英文科8期卒業です。琉球大学同窓会顧問で琉球大学名誉教授です。

《儀保博信副会長》

私は14期の儀保と申します。

1. 会長挨拶

《幸喜会長》

皆様にはご多忙の中、お越し頂き誠に有難うございます。

本同窓会は歴代の先輩方が手さぐり状態で長年、ご苦労なされ現在の磐石な組織に築き上げてこられました。そのご尽力に対し心から感謝を申し上げます。9代目会長



幸喜 徳子

としてこの組織をいかに次世代に発展的につないでいくか、その役割をしっかりと果たせるよう努力したいと思っており、今後とも皆様のご指導をお願い致します。

それではテーマに沿って皆様から忌憚のないご意見を頂きたいと思えます。よろしくお願いいたします。

《司会》

ありがとうございました。

2. 同窓会の歴史及び現状

《司会》

座談会を始めるにあたっては、同窓会のこれまでの歴史及び現状を把握しておく必要があるかと思えますので、山里事務局長より「同窓会の歴史及び現状」について簡単に説明をお願いします。

《山里事務局長》

先に皆さまには、資料をお送りしましたので、かいつまんで同窓会の沿革をご説明いたします。

昭和29年12月、琉球大学同窓会結成、その時



山里 将順

の同窓生は148名でした。

昭和48年3月、復帰直後ですが、同窓生が9,885名になります。その後、支部が結成され始め現在7支部になっています。

平成元年3月、同窓会会報創刊号発行。以後毎年発行されています。大学への課外活動援助費150万円贈呈、以後毎年継続。平成17年2月、創立50周年、記念イベントをいろいろやりました。記念式典、祝賀会、記念公演等。同年4月、教員選考試験受験対策講座を開始し、以後毎年開催。平成27年2月、創立60周年、記念イベント開催。2月から7月まで様々なイベントを展開してきました。会員総数76,000余名となっています。おおまかな歩みをご紹介します。

《司会》

ありがとうございました。

3. これまでの同窓会活動について

《司会》

それでは、本題に入りたいと思います。今、これまでの同窓会の沿革について説明がありましたが、これまでの同窓会活動についてご意見がありましたらご発言願います。まずは、前会長でもあります赤嶺健治顧問に、これまでの同窓会について苦労話も含めてお話しいただきたいと思います。

《赤嶺顧問》

昭和63年6月から評議員として14年、平成14年6月から副会長として4年、平成18年7月から会長として4年、同窓会に22年間関わってき

ました。

評議員在任中には、昭和63年度一般予算運営費の逼迫に対する緊急対策として同窓会役員一人当たり、10,000円拠出することを決定、平成元年4月には入会金1,000円を10,000円に変更、同年6月同窓会費年額1,000円を終身会費10,000円に変更し現在に至っています。これで財政面で少し余裕が出たと思います。

副会長在任中の平成15年5月「個人情報保護に関する法律」が施行され、同窓会名簿を作成して出版準備をしていたができなくなりました。

会長在任中、これは一番大事なことかと思いますが、平成19年6月、岩政輝男学長が就任され、8月に1956年の「第二次琉大事件」で退学処分を受けた7人について、岩政学長が処分を取り消し謝罪しました。これは先に平成17年4月、当時の比嘉正幸同窓会長が処分取り消しを学長に要請したことに基づいていました。

平成20年12月、「平成21年度（2009）学生募集要項」で個人情報の利用等に関して「本学の関連団体である琉球大学同窓会、琉球大学後援財団、各学部、学科同窓会及び同後援会に入学手続き者の氏名等、個人情報を当該組織の活動に必要な範囲において提供する場合がある」と明記されました。これまでこの法律で同窓会は大学から名簿が貰えず大変困りました。全国の国立大学の対応等の資料を収集しまとめ、当時琉大監事であり同窓会副会長だった当山尚幸弁護士を中心に大学へ強く要望しました。それが奏功しその年から実現しました。

平成21年3月、岸本正之氏から琉大に桜の木を寄付したいとの申し出がありました。当初、千本桜と言っていたんですが、第一期160本が植樹され、12月には第二期130本植樹完了し合計290本となり、それが着々と進められていま



赤嶺 健治

した。大学側の対応のま
ずさから、一時期岸本氏
と大学とで意思疎通がう
まくいかなかった時期も
ありましたが、現大城学
長と幸喜同窓会長の関係
プレーによって岸本ご夫
妻との良好な関係が回復されました。平成27年
7月、岸本氏に名誉学位も授与され、顕彰碑も
建立されました。これは大城学長と幸喜会長の
功績が大きいですね。

《司会》

どうもありがとうございました。高山朝光さん
も長い間同窓会活動に関わってこられたと思
いますが、琉大職員だった頃のエピソードも含
めてお話しいただきたいと思います。

《高山朝光》

私は、1958年に琉球大学を卒業して、10年間
は大学事務局に勤務しました。そこでずっと琉
球大学を眺めてきて、一番大事にしたことは卒
業後の先輩と後輩との連携をどう図っていく
か、先輩がどんな職場で活躍しているか、その
姿を後輩に見せることでした。琉球大学を卒業
して、どのように社会進出をし、どういう分野
でどう活躍しているかを見せていくことです。

琉球大学は、1960年頃までは、8ミリ大学と
言われました。評論家の大宅壮一氏が琉大を見
て、「8ミリ大学」と表現したんです。通常映画
は16ミリですが、8ミリ大学とはまだ大学にも
なっていない状況ということです。戦後間もなく
大学がたくさん設置され、各県に一つずつ大学
ができて、駅弁大学と云われていた頃です。琉
球大学の学生は沖縄では非常に誇りを持ってい
たが、他県に対しある面、劣等意識を持った時



高山 朝光

代だったんです。そこか
らどう脱却していくかと
いうのが琉大の進むべき
方向であり、我々学生の
努力でありました。もう
一つは、卒業生が職場で
他の国立大出身者に負け

ない頑張りです。そういう先輩の姿を見せなが
ら学生をどう勇気づけていくかということです。
それからいうと同窓会を作ったのは親睦を
図りながら、お互いの中からもっと大学に貢献
したいという思いがあったからです。

時代が変わり、琉球大学も国立大学としてこ
れだけ大きな大学になり、アジアと結ぶ大学と
いう誇りを持っています。同窓会のこれからの
あり様、何をすべきか、何が魅力的か等、私も
60年間みてきておりますので、これからじっく
り皆さんと話したいと思います。

《司会》

どうもありがとうございました。幸喜会長も
同窓会活動に関わってかなり長いと思います
が、会長からみたこれまでの同窓会活動につい
てお話しいただきたいと思います。

《幸喜会長》

私は6年前から会長を仰せつかりました。
創立50年から60年迄ですと、思い出すのは2004
年、同窓会創立50周年の前年から記念グッズと
して、岸本一夫氏デザインのかりゆしウェア、
Tシャツを作成し販売したことです。

個人情報保護規定に関しては2008年に専門委
員として関わりました。当山弁護士事務所へ度々
集まり、作成したことも思い出深いことです。

50周年記念式典の際は、社会のリーダーとし
て活躍されている多くの同窓生が参加され、頼

もしく感じました。

2010年、会長に就任し、同窓生の親睦交流の輪を広げ、地域と連携し社会貢献も視野に入れた活動を提案しました。

2011年には定期総会に続きシンポジウムを開催しました。安里昌利沖縄銀行会長、大城浩元沖縄県教育長、富田詢一琉球新報社社長、比嘉良雄元沖縄都市モノレール社社長をパネリストに、大城肇学長には基調講演をお願いしました。

地域貢献として一般県民にも無料開放し、約350人の聴衆が参加して喜んで頂きました。その後も3年連続、多くの県内トップリーダーを迎えてシンポジウムを開催しました。

2014年は國吉幸男元琉大病院長の講演、翌年、60周年記念講演はロサンゼルス在、岸本正之氏のグローバルなテーマでの講演でした。今年、2016年は「これからの沖縄観光と人材育成」というテーマでシンポジウムを開催します。

同窓会に地域社会の皆様の参画を得て活動ができることを嬉しく思っております。地域社会と関わり活発に活動する同窓会でありたい、そんな思いを皆様が支持して下さい有難いことです。支部については同窓会創立60周年の2014年に、休眠状態だった八重支山支部が20年ぶりに再スタートしました。2年程は再始動に向け準備期間がありました。最初に私が社用で八重山出張の折、初代支部長や事務局長、他の会員を其々お宅や職場にお尋ねし、再興のご相談をしました。その時、伊舎堂前支部長が「役員を一新し再始動する」という結論を下されたのです。翌年、新役員が選出され、現在の素晴らしい活動に至っております。今年の本部の懇親会には「八重山支部が舞台を務めます」と意気込みを示されました。以前には関東支部の仲本光正氏主宰の「クイチャーパラダイス」も見事な舞台を務められ、支部との絆を感じた次第です。

2015年、本同窓会創立60周年記念式典には、各支部事務局長も支部長と共に招待でき嬉しいことでした。創立60周年記念に芸術祭、ゴルフコンペ、顕彰碑建立、記念式典、講演会、懇親会を実施しました。同窓生や稲嶺恵一元沖縄県知事はじめ県民の多大なご協力のお蔭で成功裏に終了し、感謝致しております。収益金より大学へ120万円の寄付金を贈呈できました。

沖縄県教員候補者選考試験も2015年は同窓会主催の講座から44名が合格、快挙でした。大学主催の「ホームカミングデー」には同窓会も連携しております。

《司会》

どうもありがとうございました。宮城重哲さんは長い間関東支部の事務局長をされて、支部を通して同窓会活動を見てきたと思いますが、支部での活動も含めてお話しいただきたいと思っています。

《宮城重哲》

沖縄に33年ぶりに戻り、現在、ロート製薬と琉球大学医学部の共同研究、県のプロジェクトで再生医療プロジェクトのメンバーとして働いています。これも偏に琉大同窓会関東支部の事務局長として10年以上関わってきたおかげです。私は大城学長が副学長時代から、琉大は産官学プロジェクトを強力に推し進めないといけませんよとプッシュしていたんです。その私が産官学プロジェクトに関わったので、琉大のためにということで移ってきました。

過去10年間、関東支部で活動してきましたが、最初は先輩からの誘いで同窓会に行ったら、自分の発言の機会は何も無くて「6,000円も会費を払ったのに来年からは参加しない」と思ったんです。ですが結局、翌年も引っ張られて最終



宮城 重哲

的には事務局長を10年以上やってしまいました。そこで同窓会をどうやって強化していくかということに大いに悩みました。会の資金といえば同窓会本部からの支部活動費10万円しかなかったもので、私は事務局長になる1年前から会報誌の発刊を思い立ちました。名刺広告取り、会社訪問の記事を自分で動き、書いて、とにかく苦勞しました。本部も同じだと思いますが、関東支部の一番の悩みは会員増強と資金造成でした。そのために名刺広告を取ったり、ゴルフコンペをしたりしましたが、なかなかでした。会員増強の面では組織を見直し、役員会の下に幹事会を置いて、若い人たちを集めて将来の役員候補として位置づけました。また、インターネットを活用し、ホームページやフェイスブックを開設して若い層にアピールしましたし、機械工学科の学科同窓会をはじめ、各学科に呼び掛け学科同窓会を取り込むよう頑張ってきました。今、関東支部は新しい事務局長はじめ若い世代が増えており、同窓会本部との絆を強め、大きく伸びるだろうと期待しているところです。

《司会》

どうもありがとうございました。比嘉正幸さんも琉大職員として同窓会活動に携わってこられました。琉大職員の視点からこれまでの同窓会活動についてお話しいただきたいと思います。

《比嘉正幸》

昨年6月末まで琉大で事務長を務め、現在は医学部附属病院を支援する財団法人に身を寄せ



比嘉 正幸

ています。琉大職員からみた同窓会という課題ですが、単刀直入に言って同窓会は非常にありがたい組織です。学生のために何らかの支援をしたいが資金がない時、同窓会から支援してもらいました。「江戸立探検隊」でも同窓会から資金をいただき非常にありがたい事でした。しかし、それは私がたまたま知る立場にあったから、同窓会活動をありがたいと思うのですが、琉大職員がみんな良く知っているかというところでもないのかなと思います。というのは実は私も同窓会と関わって初めて同窓会はこんなすごい事をやっているんだと知ったからです。それまでは同窓会の存在そのものも知らず、気にも留めてなかったというのが正直なところです。

《司会》

どうもありがとうございました。これまでの同窓会活動について若い方々の意見もお聞きしたいと思いますが、友利直子さん質問なども含めて何かご意見をお願いします。

《友利直子》

私は現在、個人事務所でいろんな分野の仕事をかけもちでして、宮城重哲さんと医療関係で知り合いました。いろんな幅広い分野で行政のサポートをするプロジェクトをやってきました。今回も宮城さんからお声かけがあって参加いたしました。皆さまのこれまでの話を聞いていて正直知らなかったことばかりでした。大変恐縮ですが…。送っていただいた同窓会資料を見たり、ホームページで活動を知って「そうなんだ」と思った次第です。逆に知らな



友利 直子

くて大変申し訳ないという気持ちでいっぱいです。高山さんや幸喜会長のお話にあった「どう社会と繋がってイけるか」はとても重要なことです。

私は卒業後社会に出て、いろいろ苦労したこともありました。本土の大学の卒業生、例えば早稲田大学などは年一回会合を開いていることは知っていましたが、私は琉大卒のどんな先輩がいらっしゃるのか知りませんでした。そういうネットワークが出来たらほんとにいいだろうなと思います。宮城さんが話された中間ブレイクみたいなものがすごく重要だと思います。先輩方の知恵だったり、ネットワークって強いですよ。上の方々の強い力と学生の若い考え方や求める世界をつなげる層が必要だと思うんですね。フットワークが軽くアクションをおこせる人間、恐らく真ん中の人間がいればできます。「私もやりますよ」という意気込みで言っていますので、これまででもできることがあったんじゃないかと思っています。

私の提案ですが、卒業生の登録番号を作ったかどうかと思います。個人情報保護法もあるんですが、ホームページ上で個人で出したい情報だけ登録するので問題はないと思います。これを同窓会事務局が把握していて、表出しは名前だけでもいいんですよ。フェイスブック風にキャリア等も入れて、つまり学生がインターンシップなどで会社に送るような情報です。それを私が知っていたら、私なりにあっちこちに声をかけられますし、つなぐことができます。そういうことを具体的に展開し、活用して自分にもプラスになれば卒業生みんな協力するんじゃないかと思っています。

《宮城重哲》

私もあとで提案しようと思っていますが、若い人たちは仕事をしていますから、彼らを同窓会に引き込むには自分たちの仕事にプラスになることをしないと参加しません。関東支部では総会の前にビジネス交流会、要するに名刺交換会をやりました、そこに来た人には全員しゃべってもらいました。それが会社の宣伝にもなるから、毎回、定期的に継続していくんです。こういう風にすれば若い人たちも参加意義を見出して増えていくと思います。

《司会》

どうもありがとうございました。本日は在学生も参加してもらっていますが、新川さんは同窓会が主催する「教員採用試験対策講座」を受講し、見事採用試験に合格されました。それを踏まえて、同窓会に対してご意見をお願いします。

《新川颯人》

今のビジネス交流会、興味深いと思います。自分も教員になる上で案がありますので後ほどお話しできればと思います。私事ですが、私の父も琉球大学の卒業生で、今は付属小学校で働いています。私は3人男兄弟ですが、3人とも琉球大学教育学部に在籍しています。同窓会には「教員採用試験対策講座」で非常にお世話に

なったので感謝しています。教育学部の学生はこの講座のおかげで同窓会のことはよく知っていますが、他の学部の学生は知らない人が多いのではないかと思います。他の学部とも関連講座を開く



新川 颯人

ことで同窓会の活動を知ることができるのではないかと考えます。就職セミナー講座みたいなものがあれば学生はもっと参加するのではないかと考えています。

《司会》

どうもありがとうございます。本日は琉大に在学中であり、また、久米島支部でも活動されている仲宗根麻衣子さんにも参加してもらっています。支部活動を通して同窓会活動についてご意見ををお願いします。

《仲宗根麻衣子》

久米島から参りました仲宗根です。私は在学中同窓会についてあまり知りませんでした。出身は埼玉ですが、26年前に久米島に嫁いで16年間久米島に住んでいました。子どもがすぐ生まれ、子どもが高校進学の年齢になったとき、子どもと共に本島に引っ越してまいりました。それが10年前のことで、子どもが卒業したので私も何かしなければと仕事をしていました。高卒でしたので大学に行きたいと思い、琉球大学の社会人入学に受験して平成22年から大学生になりました。いろんな仕事をしながら琉球大学にも仕事でお世話になりながら、大学4年前期まで続けました。夏休みに入って久米島から観光に関わる新しいプロジェクトをするので働いてみませんかというお話が来ました。その時は、

卒業前なので半年待って下さいと言ったのですが、待てない状況だとわかり、思い切って2年間休学して久米島で働きました。仕事が落ち着いてきたのでこの10月から復学しました。



仲宗根麻衣子

久米島に戻って初めて同窓会の皆さんとふれあう機会がありました。私が琉大で学生をしながら働いていることを島の人知っていて、同窓会のお誘いをいただいて参加しました。初めての総会に大城学長もいらして、びっくり！幸喜会長とも親しくお話ができました。久米島にも多くの同窓生がいらっしゃいます。大体は学校の先生ですが、毎回とてもいい雰囲気です。参加させてもらって感謝しています。久米島にサテライトキャンパスもできているので、活用して若い方々に呼び掛けて組織の活性化ができたらと思っています。

《司会》

どうもありがとうございます。本日は学科同窓会からも参加してもらっています。商学経営学友会事務局長の友利勇栄さん、学科同窓会活動も含めてこれまでの同窓会活動についてお話ししたいと思います。

《友利勇栄》

琉大同窓会の存在は、卒業した時から会費納入の通知が来ていましたから知っていました。大学を卒業して税理士になって、学友会、経営学専攻の同窓会に初めて参加したのが5年前です。その席で「来年から事務局長を下さい」と言われて引き継ぐことになってしまいました。前任の事務局長が私より20期先輩の方でした。その時、私は38歳でしたので一気にドーンとおろしていただいたような感じでした。他の学科同窓会のことはよくわからないのですが、わが方は比較的活発に動いていると思います。私が参加した頃、平均年齢60歳位で私が一番下でした。やはりここでも同じような問題があって、いかに若い人を参加させるかという悩みでした。通例の総会では40～50人くらい集まり



友利 勇栄

ます。3年に一回程度、県内大手企業の代表者が来るということになると、動員がかかって100人くらい集まります。各企業のトップから同窓生にメールなり、指示を出

して集める方法で届く範囲でやっています。

30代、40代は何かメリットがないと集まらないのかなと感じています。僕の同期もそれぞれ模合をやっていますが、大手企業に勤めている人ほど参加したがない。現状としてはそうなんです。集まって、語り合い、名刺交換会などすると非常に活発になり有意義だと思うんですけどね。そこにたどり着くまでにどうするかです。

《司会》

どうもありがとうございました。本日はまた、企業で活躍されている若手の同窓生にも来てもらっています。沖縄銀行行員の糸村昌史さん、企業で働いている視点で見た同窓会活動についてお話ししたいと思います。

《糸村昌史》

2003年に法文学部総合社会システム学科を卒業して現在、沖縄銀行本店、本部法人部で中小企業の支援をメインで勤めています。私も同窓会の存在は知っていましたが、どう関わっているのかわからなかったというのが正直なところ。先ほどから先輩方皆さんのお話を聞いて、大変なご苦勞の中で活動されてきたんだと知り、申し訳ない気持ちです。私が琉大を卒業して就職で悩んでいる時、助けていただいたのも琉大の先輩ですし、琉大を出て13年になりますが、いろいろな形で関わっています。たまた



糸村 昌史

ま沖縄銀行が琉大で講義を持ったり、安里会長がセミナーに出たり、法科大学院の学生支援を毎年やっており、司法試験でも良い結果が出てきます。琉球大学という同

じ大学を出たという思いは同窓会に関わってなくても連帯感としてもっている印象があります。ぜひこういう機会をいただいたので私も何らかの形で関わっていけるようなご意見を伺いたいです。先輩方の活動から学び、我々社会に出ている者が、現役の学生にどう伝えていくか、それが一番のポイントなのではと思います。

《司会》

どうもありがとうございました。

4. これからの同窓会のあり方について

《司会》

ネットワークの話が出ましたが、これから同窓会を支える若い皆さんに活用してもらって大いに期待したいです。宮城さんからの提案、名刺交換会とか幹部会、若い新川さんの就職支援セミナー等、新しい発想です。これまでの話しの中からこれからの同窓会のあり方を発展的に語り合っていただきたいと思います。赤嶺顧問からお願いします。

《赤嶺顧問》

同窓会の目的に母校の発展に寄与することがありますが、母校の発展を支える観点からモニターの役割を果たすことも重要です。最近気づいたことですが、琉大のホームページに同窓会が寄付している「学生課外活動援助費」が載っ

ていなかったの、学生課に問い合わせたら「うっかりして出していない。学内用には出している。さっそくホームページに載せます」ということでした。これもモニターの役割の大事さだと思っています。入会金の徴収ですが、これまでもいろいろ要望を出してきたが、改善の協議をした方がいいんじゃないかと思います。沖縄大は入学時に終身会費を大学の授業料と一緒に徴収しているそうです。国立と私立の違いもありますが、現在は琉大も独立法人になっているので検討事項だと思います。

二つ目は、ホームカミングデーを充実させ、参加者を増やすことです。大学のホームページに去年の参加者は70名と出ていました。最初は大学祭と同時開催でしたが、去年は別開催となりました。天候が良くなかったので参加者が少なくさびしい状況でした。将来に向けて同窓生だけでなく、学生の父母も参加できるキャンパスツアーなども考えたかどうか。もうひとつ、大学側、つまり迎える方々が少ないということ。大学の評議員、各学部長、学科主任などそういう方々がそろって迎える形であってほしいですね。

三つ目は、同窓会のホームページの充実です。web会員登録でIDとか番号を入れて、他人に見られない工夫をしてブログなどができるようにする。フェイスブックなども活用してね。それから同窓会の会費の振込先等をホームページに掲載した方がいいと思います。

四つ目は、学科同窓会との緊密な提携を行う。特に諸行事への参加者を増やすためにはぜひやっていきたい。

五つ目、これは私のアイデアですが、会員証を発行して協力店での会員割引制度を実施する。母校愛、同窓意識、誇りを示すバッジやワッペンを作る。そういうことを考えています。

《高山朝光》

実は私は3つの同窓会に関わっています。一つは同窓会本部、二つ目、経済学科の経友会。経友会で一番多く集まったのは120人位です。なぜそんなに集まるかというと、琉大の先生方がみんな来ていたからです。現在は25名しか集まりません。先生方がいませんでね。大体70歳から80歳代が集まります。その下の人たちはほとんど呼び掛けても来ない。そこに魅力がないわけね。その魅力をどう作るかです。三つ目の同窓会は、東西センターでハワイにあります。実は復帰前、たくさん沖縄から行ってお世話になったんです。メンバーは短期を含めて400人位います。同窓会もものすごく盛り上がるし、募金活動も盛んです。なぜか、そこにお世話になったという思いを強く持っているからです。そこでアジアの人たちを含め家族同様に一緒に暮らしているから愛着心が強い。現在、次世代の人たちを育てるようになったが、どうつないでいくか、どう魅力を作っていくかが課題です。

ネットワークの話が出たんですが、若い人たちはみんなメールでやっていて、メールで確認している。琉球大学同窓会もメールをどう使っていくかが非常に重要です。今、同窓会を見た場合、60代、70代がほとんどです。この人たちは大学への愛着が若い皆さんより強いと思います。当時は琉球大学一つしかなかった。社会も琉球大学の学生に対する信頼も高かったし学生も大学に愛着があった。同窓会は、再会の場として集まっていた。しかし今時代は変わりました。さて、どうするかということです。大事なことはどう組織を強化していくか、若い人にどう譲っていくのか、これからはネットの時代ですから、登録させてネット上で会費も徴収していく、そういう登録制度をやっていく。実例と

して、実はハワイ沖縄連合会は45,000人位の会員がいて、分厚い広報誌を2ヵ月に1回、1万部も発行している。役員は大体40代、役員は1年しかやらない。会長には副会長を付けていろんな仕事をさせながら育てて、副会長が次の会長になる。輪番で会長、副会長をやります。皆さん現職ですから仕事が犠牲になることもあります。なるべく負担にならないような形でやっています。これがそのままわが同窓会に適用できるのかは検討すべき課題です。

先ほどから若い皆さんは同窓会の存在を知らなかったという話でした。みんな参加して活動したいという気持ちをもっている。学科同窓会に100人集まるという魅力は何か。それは名刺交換、情報交換だと思います。例えば、「どここの銀行の頭取が来ます」というのが前もってわかればネットで呼びかけられます。名刺交換、情報交換しませんかみたいな、いろんな形で工夫を考えるべきです。同窓生をどう呼び込むか、魅力を持たさないといけない。その前にまず組織の強化、若い人たちの意見を反映する。ネットの問題は具体的に取り組むことです。

先ほど話題になった入会金、年会費をそれぞれ1万円にした件、これは10年前にやりました。将来的にはこのまま行くと、資金に行き詰ってしまう。会員から集めるためには、やはり組織を強化して50代、60代の同窓生をたくさん集めること、これを是非考えていただきたい。

《宮城重哲》

私が関東支部で苦勞した話の追加です。高山先輩の話された組織強化の件ですが、関東支部も取り組みました。学科同窓会、サークル活動、私はバンド部でしたが、関東支部で非常に大きかったのが合唱部です。合唱部が名刺広告、後援者を出して、紹介してくれました。それで

サークル活動の活躍も広報誌に載せようということになりました。会報誌に名刺広告を出した一番の理由は会員同士の懇親、告知をする。もう一つは就職活動している後輩たちに先輩たちが東京、関東地区で頑張っていることを見せることでもありました。この名刺広告の効果としても一つあります。5,000円で一度広告を出した人は2回目以降キャンセルしません。こういう人は大体総会にも参加します。同窓会だよりで職場訪問をすると、そこのリーダーを幹事にするんです。ぜひ本部でもやっていただきたいですが、琉銀、沖銀、沖電など大きな組織、同窓生の多い所、そこを取材してそこに幹事をしてもらえます。関東支部だったら医学科同窓会、その会長は支部の評議員なり役員になってもらったりしていました。それと学科同窓会やサークル活動をやっている人、あるいは組織の中でキーパーソンの人を会報誌に載せるんです。これは後輩たちが見ることによって将来そういう職に就きたいという思いにもつながります。それから教授が退官、あるいは叙勲された時にその先生を囲んで祝賀会をやる。機械工学科では人数がボーンと増えました。そういうことが活動力アップにつながると思います。自分の職場のPRができる場、つまり若い人たちはなかなか自分の名刺を出せる機会がないのでそういう場にしてほしいですね。本部に対してですが、資金造成ゴルフ大会は、是非定例化してほしい。一石二鳥の効果が得られると思います。資金造成とゴルフを楽しむことができます。実行委員会を作って琉大同窓会がゴルフ大会をやっている、活動しているというPRにもなると思います。

それから産官学プロジェクトですね。その応援も同窓会にやっていただきたい。友利直子さんも実際やっていますが、沖縄県のために、



左から儀保、幸喜、高山、宮城

琉球大学のためにと応援してほしい。同窓会にバックアップ体制があればそこにつなげられるいろいろな企業が現れると思います。

《司会》

前泊さん、お忙しいところありがとうございます。若手で評議員として積極的に同窓会活動に参加されています。若い人たちに参加してもらうにはどうすればいいか、お考えを聞かせてください。

《前泊美紀》

私は44期、法政学科に在籍しておりました前泊美紀と申します。法律専攻で大学院にも4年いたので、あしかけ8年間、琉球大学大好きで在籍しておりました。同窓会にお声かけいただいたのは津留健二先生でした。父親も琉大卒で親子で評議員をさせていただきました。学校から離れると同窓会の存在を意識することがなくて、このような機会がないと大学との関わりも薄れるなどと思ってお引き受けしました。大学に来ると、青春時代を思い出したり、先輩方のお話も非常に面白いなと思っております。

さて、これからの同窓会のあり方についてですが、難しい課題です。同窓会に限らず、私た

ち子育て世代にとって、組織に入って集まって何かやろうという時になかなか参加していただけない。とくに女性のお母さんたちは出てこれないのが現状です。ましてや同窓会となると非常に頭をひねるわけです。若い人はシビアですからメリットがないとなかなか腰をあげない。幸喜会長が就任されて間もなくのことでしたが、強いリーダーシップでパネルディスカッションを開催しました。琉大同窓の大先輩、活躍されている方々のお話を聞いて非常に勉強になりました。普通の社会の場面場面ではなかなか名刺を差し出す機会がないとお話がありましたが、錚々たる方々とちょっとお近づきになれるというのは、大変メリットがあって異業種交流の場としていいんじゃないかと感じています。その辺りを伸ばしていくことと、メリットということでは、学生の最大の関心事の一つは就職活動だと思います。教員養成の形で同窓会が力を発揮していますね。似たような話があります。県外への就職を目指す学生さんが就職活動のための資金がなく、30万円くらいかかるので、卒業を前に資金を貯めるためにバイトに明け暮れている状況だという話を聞いたことがあります。そしてそのための奨学金的な基金があればという声も聞いています。就職活動で県外へ行って、そこで滞在する場所があればいいとか、一時的に資金を借りて就職後に返済できる仕組みとか、何か方法はないかという話でした。大変難しいですが、そういった学生の悩み、声を拾って同窓会が支援する、それも一つの方向じゃないかという気がします。

《比嘉正幸》

今のお話ですが、実は琉球大学が就職活動に関して、企業訪問とか、面接とか県外就職する場合、20,000円か30,000円支給しています。数



前泊 美紀

年前から大学の事業として行っています。

《前泊美紀氏》

素晴らしいです。大学自体が頑張っている。何らかの形で同窓会もそういった支援ができたと思うのですが。

《新川颯人》

就職セミナーについてですが、私自身教員志望で就職活動はしてなく、大変なんだと客観的に見ていた身なので、案として先ほど申し上げたわけです。教員としての立場で述べさせていただきますと、若者はメリットを求めているので、自分もやっぱり教員になったら、どんな風なメリットがあるといいのかと考えます。先ほどの同窓会の魅力というのもそこに繋がるような気がします。私自身同窓会の力になればいろいろ考えました。自分は来年から初任者研修があるのですが、そこで苦しむ琉大生がとても多いと聞いています。実際教育現場で「琉大生は…」という意見が結構多いんですよ。他の大学の人たちはほめられて琉大生がかなりシゴかれているという話を聞きます。自分はそれがとても口惜しくて…。自分は琉大に誇りを感じているので、教員になったら同窓の教員同士が繋がる場を作りたいと思っています。今、それを立ち上げている段階で30～40名ほど、琉大生の合格者を集めて、来年度からスタートさせようと思っています。小集団で同じ目的で繋がる場があればと考えています。この座談会に参加できて良かったと思いますし、同窓会との繋ぎ役になればいいと思っています。

《司会》

「つながり、という意味では、どういう形でネットワークを作っていくのか、その辺りのネットを利用しての同窓会活動の在り方、メリットの問題など、友利さんのご意見をうかがいたいと思います。

《友利直子》

同窓会ってどういうことをしているか、ホームページで見たんです。私、実はプライベートで女子野球を20年ほどやっていて、沖縄県の女子野球連盟の会長もしています。チームの運営、監督、プレーヤーでもあります。うちのチームは小学生から中・高・大と年齢がバラバラですが、上下関係を全部取っ払っています。だから誰とでもタメ口で呼び捨てです。お互いが意見を出し合います。そこで人の関係があって、世代間の価値観の違いも出て、言いあうこともOKです。例えば忘年会ではそれぞれが何かを披露します。「この場において楽しいね」ということを結構念入りに日々やっていますね。

皆さんのご意見を伺って思ったのは、やっぱり私は自分と同じ年代のポイントは知っているが、20代、10代のポイントは知らない。それを聞いてへーと思ったり、何でも相談するようにしているんです。どう思う？どうやったら楽しい？とか聞きながら。今日も若い新川さんとか皆さんさまざまな年齢層がいらっしゃるの、各層の人たちのことはその人たちに聞けばいいと思います。各層の人たちからリーダーが出て繋がっていけば意外にうまくつながるような気がします。私は野球つながりとか、仕事でとか、その人なりのいろいろなつながりがあると思います。皆さんそれぞれのルートがあるからそういう輪をつなげていったらどうでしょう。先ほど宮城さんがおっしゃった各リーダー

が幹事会で集まるのもいいし、その人とまた誰かがつながってどんどん人の輪をつくって、山ほどグループがつながっていけば、情報は一気にに行くと思うんです。

登録に関しては、私は琉大卒だよという意思表示のきっかけとして登録できる仕組みがあればいいと思います。その中で定期的に集まってお互い知り合える場を設定して、40代層はどうやらここら辺がフィットするみたいよという情報はその年代層がわかるでしょうし、20代には20代のポイントがあるはずなのでその年代に聞いた方がいいと思います。そういう情報が集まるような仕組みを取っていったらいいのではと思います。

《高山朝光》

非常にいい発言ですね。それに前段で話されていた登録制、とてもいいと思います。登録制って何をするかというと、今、それぞれ個人がパソコンを持っていますから、パソコンのメールアドレスを登録すると、その人たちに情報が行くようにする。例えば琉大の卒業生が、仮にノーベル賞の候補だと彼はこういう功績で候補になりましたみたいな情報をメールで送って同窓会会員のメンバー意識を高めるようなことも可能です。できるだけ総会には多くの会員が集められるような形を取るのだと思います。



左から仲宗根、友利（直）、比嘉

《幸喜会長》

総会の時に受付でメールアドレスをもらうようにしてそれを蓄積していくといいですね。

《友利直子》

沖縄総合事務局がメールマガジンを発行しています。メルマガに自分たちが申請してその人たちに定期的にメールが配信されるんですよ。そういう仕組みが一番いいかもしれませんね。

《宮城重哲》

今はPCのメールアドレスを持ってなくても携帯のメールアドレスは持っています。だからそういう連絡網はできると思います。それをまずやった方がいい。今、皆さんの意見を聞きながら思ったのは、同窓会の強みは同窓生がたくさんいていろんな所で活躍しているということです。それをweb、ホームページ等を通して、海外で仕事をしている人と時間も場所も問わずぐつながります。同窓生の中でも海外生活経験者、その人たちと無料のテレビ電話で会話もできます。例えば東南アジアで就職したいという人は同窓会の海外版で就職情報を提供するか、関東だったら関東支部にまかせるとか、特に海外は同窓生が中心にやってはどうかと思います。私の同期生で南米に20年間生活して、大成功して山原に帰ってきている人がいます。南米に行きたい人は彼の意見、アドバイスを聞くことができます。これは同窓生ならではの思うんです。そういう人たちと意見交換ができると新たに展開していけます。

もう一つ、太田靖之さんという海洋学科を卒業して医者になって、作家になった方の処女作が映画化されたそうです。私はこの人のホームページを見て感動しました。医者がこんなことを言うのかと、これをwebで見たから感動した

んですよ。こういう類を、例えば同窓会本部のホームページにリンクを貼って、「えっ、こんな先輩がいるの？」みたいなものをみんなに見せてあげるということ、非常に大事なことだと思います。海外との接点、同窓のキーパーソンたちはリンクを貼っていく。キーパーソンじゃなくてもいい。貼りたい人は当然貼らせていいし、そういう形で同窓会本部のホームページを活用すると非常に見応えのあるものになると思います。

《前泊美紀》

琉大ってとってもやりやすいですね。大体卒業した大学が載っているから「知り合いかも？」ってどんどんつながっていきます。

《高山朝光》

今の関連でいうと、今はスカイプが便利です。顔を見ながらできますから。実は2年前に国際会議を沖縄でやった時にハワイの本部とのやり取りは、全て自宅に居ながらやりました。今の同窓会、本部と支部との会議とかスカイプでやってみたらどうかと思います。関東支部の先生の話があったでしょう、その先生にきてもらって同窓会の中でも交流する。これが評判になって更に広がっていく。あるいは皆さんこれを聞きに来ませんかと案内ができる。メールやスカイプの時代だからそれを活用してやっていくのは非常に大事だと思います。

《司会》

だいいい意見も出ました。なんか明るくなってきた感じがしています。あと2、3ご意見をいただきたいと思います。

《友利勇栄》

組織強化とか会費を増やそうというのは即効性という意味でなかなか難しいと思います。今皆さんから意見の出たホームページにアクセスすることも大事だと思いますが、若い方から出た同窓会の存在すら知らなかったというお話がありましたね。まず存在を知らせるってことで言うと、幸喜会長がおっしゃったように社会貢献っていうか社会的に発信するシンポジウムなどをやって、ジワジワ広がり始めている気がします。それから存在を知って、ホームページにアクセスして登録してみようとか、僕らにもメリットがあるかもしれないって感じるかもしれない。最初のきっかけはやはり社会的に同窓会は貢献しているという活動が何年か続かないといけないのではないかと思います。

《比嘉正幸》

さっき言いましたけど、同窓会からたくさんの学生に対する支援策、非常にありがたいということです。これをもっと充実、拡大していくことが大事じゃないかと思っています。米国の大学で、大学卒業者がその大学に寄付をする、そのモチベーションになるファクターを調査したところ、一位は、現役の学生時代に大学から受けた恩恵、それが圧倒的に多いという結果がありました。新川さんもお自分で就職活動のため講座に参加しているから同窓会のこともよくわかる。それで将来、今で言っておきますが、恐らく寄付してくれるだろうと。(笑)やはりメリットがないと来ない訳ですから、同窓会は知っているけれど、なぜか参加してくれない。そういうことを何らかのアプローチをかけていかないといけないのかなと思うところです。

もうひとつ、大学生の就業体験、インターンシップについて思うところを申し上げますと、



左から前泊、新川、友利（勇）

学生はやはり、行き先に知り合いもしくは先輩がいれば大変心強いものだと思うのですが、ところが、どういう先輩がどこにいるのかがあまりわかっていない。つまり、本学の卒業生の情報があまりないのではないかと思う時があります。こういう卒業生情報が、例えば同窓会で把握できれば、大学と連携することでより良い環境のもとでインターンシップができるのではないかと思います。

県内私立大学で、とても面白く興味がそそられるインターンシップを行っている先生がいらっしゃると思いますので、その事例を紹介します。

その私立大学の学生だけでなく、県内の大学生を対象とした国内一流企業の「社長秘書ツアー」を毎年のように企画・実施しています。所謂、社長秘書を1週間体験させようというものです。社長秘書ですから、その企業の各部署の仕事が何かを学べるし、その社長の意思決定の過程が少しでしょうけどわかるわけですから、その学生にとっては大変貴重な経験になっていると思われます。これは、ひとつの事例ですが、こういうことも同窓会で企画して、同窓会がそのステーションとしてできるようになれば非常に面白いなと思います。

《糸村昌史》

沖縄銀行の話をしめすと、企業も今は自分の

会社の利益だけ上げればいいという時代ではありません。とくに地域金融機関として地域のために何ができるかを考えています。最近では「地方創生、地域を元気に」という活動に目を向けています。産官学プロジェクトに最近では金融機関まで絡んだ活動を支援したり、特に我々が注目しているのが人材育成です。社会に出て活躍してもらうには人材を育成していかなければなりません。リーガルアシスタントの受け入れは毎年やっていて、毎年3名ほど司法試験に合格しています。琉大で交流をもつことで企業としてのパワーがあがると思います。当行には現役で300名程、琉大卒業生がいます。企業の力というものを使いながら同窓会活動を活発化させることも一つの手だと思います。先ほど、恩義という話もありましたが、就活の支援もできる資金的支援もできる企業も多いと思います。学生と同窓生をつなぐ役割を同窓会ができればいいのかなと思います。

《高山朝光》

実は現実の話ですが、同窓会支部をたくさん作ってはどうかということ。私は経済学科の経友会に入っていてそれがだんだん先生方が少なくなってしまう。同窓会各期ごとには盛んなんです。小さいグループでできている集まりを同窓会に来てもらうための魅力づくりをどうすればよいか、それが大きな課題です。

《宮城重哲》

関東支部でやったことは、学科同窓会の会長は、自動的に同窓会の役員になる仕組みにして会活動を支援したんです。要するに学科同窓会をやる時に同窓会会場費、飲み物代も支援するということです。そして学科同窓会長には必然的に役員になってもらう。そういうことで機械

工学科はドーンと増えて本部の同窓会まで増えるんですよ。そういう意味ではメリットがあるので、同窓会本部がやる時に学科同窓会とかサークル同窓会等の手助けをやってあげる形にすれば彼らも参加しやすくなるんです。例えば午前中は学科同窓会をやり、午後は本部同窓会につなぐ、また、それぞれの会報誌に載せるとか、そういうことを相互にやったら嬉しくなるのではと思いますね。

《赤嶺顧問》

それはホームカミングデーとタイアップしてやった方がいいですね。以前、定期総会の時、「評議員一人あたり5名連れてきてください」とノルマを課したんです。それが難しい、なかなかうまくいかない。評議員にはもっと動いてもらわないといけないですね。

《宮城重哲》

活動的で情熱的な、そういう人を評議員にしないとね。動かない人では駄目だと思います。関東支部でも名簿はあるがこの5年間で一回も来たことがない人は外そうかと検討しています。活動的な人をとということで幹事会をやったんですよ。動く人、動ける人を入れていくことです。



左から糸村、仲宗根

《高山朝光》

同窓会の資金について言うと、企業募金というのは、今、非常に厳しいんです。財務省が厳しいものですから、NPO法人とかでも免税措置がとれないんです。そういうことで会社も多額の寄付はなかなかやらないんです。広告費でとるとか何らかの形でとることはできます。アメリカみたいにはいかない。私の友人でMIT出身がいて、同窓会の何周年記念という時は100何億か集まったということです。感覚的に日本人と違うのは、日本人は寄付行為を余りやらないです。ところがアメリカは社会的なボランティア活動がものすごく盛んで個人で寄付する。何か形で社会に貢献しようということで、寄付はボランティア活動の一つとみえています。そこに日本人全体の感覚をどう移していくか、会社もそうですので、そこが将来の課題ともいえます。いずれにしても同窓会が資金を積み立てていくには、少なくともいいから寄付してもらわなければならない。同窓会はこれだけ重要だという意識をどうみんなに持たせるかが大切です。

《宮城重哲》

今の話は将来のこととして、まずはホームページあるいは会報誌で寄付を受け付けるんです。関東支部も会費をとってなかったので広報誌に寄付はここに振り込んで下さいと振込先口座番号を書きました。総会の時も寄付受付しています。同窓会本部も寄付を前向きに受け付ける方法がいいんじゃないですか。免税措置まで考える人はいないと思いますよ。何百万円もする人はいないですから、どんどん受け入れる、ウェルカムでやった方がいいんじゃないかな。



左から比嘉、赤嶺、儀保

《比嘉正幸》

国内の大きい大学は、大学そのものが基金を持っています。100億円を超える国立大学もあります。ひとつの基金として100億、大体が同窓生からの寄付、あるいは成功した会社からです。それはネットで受け付けができ、自分のパソコンからでもできるようにしています。いろんな工夫をしている訳です。そういう状況の中、誰かが言っていましたが、「何で寄付するためにわざわざ金を持っていかなきゃならないんだ」と、「寄付しますから受け付けてください」では多くは集まらないと思います。つまり、パソコン等から簡便な方法で寄付ができる仕組み作りが重要だと思います。

《赤嶺顧問》

そうそう今の琉大がそうですよ。寄付申し込みしても、受け入れ許可決定がないと寄付出来ない。ホームページから簡略に寄付できる仕組みを導入したらいいと思います。

《仲宗根麻衣子》

せっかく久米島から来たので、久米島のことをお話しさせていただきます。今、久米島の一番の課題は人口減を食い止めるということです。久米島高校では島外留学という形で県外や沖縄本島から入学してもらっています。それに同窓会

支部も常に協力体制をとっています。私も先ほどお話したように同窓会活動は久米島に戻って初めて知りましたが、久米島支部の同窓会も素晴らしい活動をしているので、私も若い人たちを引っ張っていく活動をしていきたいと思います。私が休学する前のエピソードですが、産業経営学科の1年の時、大学祭でマーケティングをやるということでシークワサーと農学部和田先生が研究した島豆腐を発酵させた「豆腐、を混ぜたクッキー」を作って販売しました。それを機に2年の前期は授業の中から商品開発をやりました。例えば東大とか、明大などは大学のお菓子があるけど、琉大にはブランドになるお菓子がありません。ですからお土産として持っていけるようなスイーツです。琉大も県外出身者が多いので里帰りを持っていけるようなお菓子です。それは北海道大学農学部出身の学生が前身の札幌農学校と書いてあるパッケージのお菓子をお土産に持ってきていたのが発端でした。実際に「ターンムまんじゅう」を作りました。これを2年次の卒業式と3年の入学式、2回やりました。オープンキャンパスの時も販売しました。原価計算をして1回で500箱販売したのですが、産学連携といった感じでコラボして、ナンポー通商さんにご協力いただきました。ナンポーさんも年末の繁忙期だったのですが、大変ご協力をいただきました。私たちもあらゆるターンムのお菓子を各地から取り寄せ、グループで話し合いながら食べました。一時期頓挫しそうな危機を乗り越えて、最後におまんじゅうにたどり着き、ナンポーさんの開発長に「こんなのできませんか」とお願いしてやっと完成しました。生協でも一時期販売してもらいましたが、賞味期限が2〜3週間と短い事が一番のネックとなりました。パッケージの箱が結構高かったり、包装紙の印刷などで経費がかか

り利益のない状況でやっていたんです。やっぱりターナムの原価が高いということでナンポー通商さんからは販売は難しいと言われました。最後は農学部でターナムを作ってもらって、それを使い原料を蒸して冷凍保存する。原料も琉大のものだから琉大ブランドとして扱えるというところまで行ったのですが、ストップしてしまいました。先ほど新川さんが同窓会のバックアップがあって存在を知ったとおっしゃっていましたが、例えば農学部や産業経営学科だったり、学部ごとにも同窓会の支援があったら現役の学生が同窓会にお世話になったという気持ちが強くなるのではないかと感じました。

《前泊美紀》

仲宗根さんの話、非常にワクワクしながら聞いていました。確かに各学部ごとに支援の仕方にバリエーションがあれば同窓会の存在として思いが繋がっていきえるのかなと思います。同窓会の一番の魅力って何だろうと考えますと、やはり人材の宝庫というところじゃないでしょうか。学生にとってはインターンシップとか、就職の時はOB訪問とか人を探すことは本当に大変ですよ。そういう人材の紹介だったり、同窓生にとっては異業種交流と色々な仕事に役に立ったりということもあると思います。人材の宝庫という魅力を存在感として示していく。社会貢献の形、そういったことが同窓会の発展に寄与することにもなるのではないかと感じました。

《比嘉正幸》

新聞で沖縄県が県外に進学する学生に奨学金月額7万円支給する、返済なしと報道がありました。1学年25名、凄い大きいですよ。国費留学生は授業料でしたが、これは生活費です。

どっちが喜ばれるかという絶対こっちの方ですよ。毎月7万円もらえるんです。私はこれは非常に危機感を覚えなきゃいかんかなと思います。

《山里事務局長》

今回の一番のテーマは、これから同窓会をどういうふうに継続していくかだったんですが、皆さんのお話から同窓会の認知度が低いということがわかりました。やはり同窓会を知らしめるためには、こちらから発信していかなければならない。ソーシャルネットワークを使うとか、メールを使うとかそういうものをフル活用して事務局もしっかりやっていこうと思います。

27年度の事業計画の大きな柱は同窓会のホームページを充実させようということです。今まで滞っていたので去年からやっと更新に追いついた感じです。いろいろな案が出ましたが、パッと押せば寄付ができるとか、管理登録ができるとかこれから研究しながらやっていこうと思っています。

《幸喜会長》

今後の同窓会のあり方ですが、最初に本部と7支部、学部学科同窓会との連携をより一層、密にすることです。

二つ目に卒業生、学生、琉大教職員、一般県民との交流も視野にいた事業を実施することもあると思います。シンポジウムや講演会、懇親会に学生、琉大教職員の皆様のご参加も頂きたいですね。特に学生にとって、社会の第一線で活躍しておられる先輩方と直接触れ合うことは、将来の人生への示唆と就活のヒントを得る大事な機会になることでしょう。

三つ目にグローバルな視野で社会の指導的役割を果たしうる人材の育成に大学を通して学生を支援する、その資金作りのお手伝いも必要でしょうね。

例として、今年元旦に海外在住の先輩から、億単位の琉大支援のお話を頂きました。現在、大学との橋渡しを務めているところですが、近々、マスコミ発表の予定です。このように同窓生の中には私財を母校の為に役立てたいと考えている方もおられます。同窓生のそれぞれの人的ネットワークを活かし、今後も皆でこのようなケースを増やしていけるといいと思います。(詳細69ページ参照)

四つ目に留学生の帰国後の情報を大学と連携して収集し、海外とのネットワークを築くのも大事だと思います。

本日は皆様から大変貴重なご提言をたくさん頂き有難うございました。登録制にしてインターネットで情報のやり取りをする、総会の時に学部学科とも連携をしてビジネス交流の場にするなど現実的でとても素晴らしいと思います。

また、同窓会が発展する為には若い人材に活躍して頂く、というご意見も重要なことで是非積極的に進めたいと思います。

同窓会では毎年、各支部の活動資金の支援、学生の課外活動費支援、教員候補者採用試験対策講座の無償開講等をしており、今後も継続し更なる学生支援へと発展させる為には、同窓会費徴収の効率化は喫緊の課題です。昨年から金融機関の他、コンビニでの振込も可能になりましたが、さらに大学のご協力をお願いすると共に、インターネットの活用等、皆様のお知恵を借りながら向上させていきたいと思っています。

本日は非常に前向きなご意見を賜り感謝致します。今後の活動に反映させ、会の発展に資したいと思います。長時間にわたり誠に有難うございました。



参加者一同

